

微生物土壤改良材

マルチ共生菌

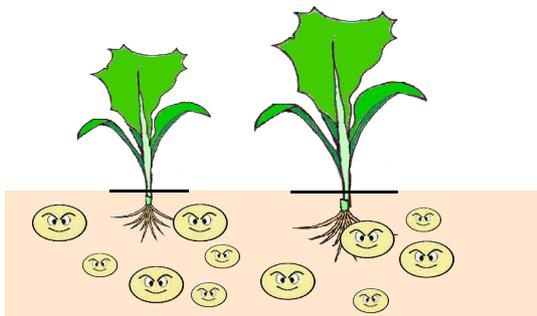
100 ml

期待される効果

- ①作物の生育の健全化
- ②連作障害物質の分解

微生物の種類

イチゴの根から分離したバークホルデリア属細菌（生菌体）です



「バークホルデリア」が作物にすみついて

⇒作物の生育を健全にします

「バークホルデリア」が土壤中にすみついて

⇒土壌中の連作障害起因物質を分解します

ご使用をお勧めする作物：野菜全般、切り花全般、鉢花全般

イチゴ、トマト、ナス、セルリー、レタス、キュウリ、ホウレンソウ、サトイモ、チンゲンサイ、ダイコン、コマツナ、アスパラガス、スイカ、キャベツ、ニンジン、シクラメン、カーネーション、キク、バラ、など

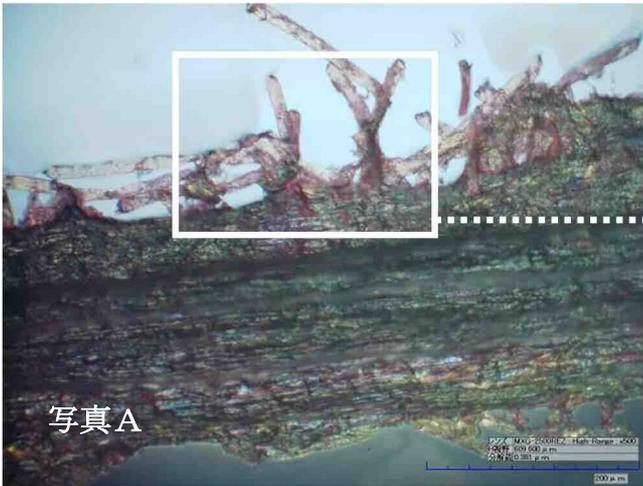
使用方法

育苗時に2回処理して下さい（1回目：本葉展開直後 2回目：1回目散布の1~2週間後）

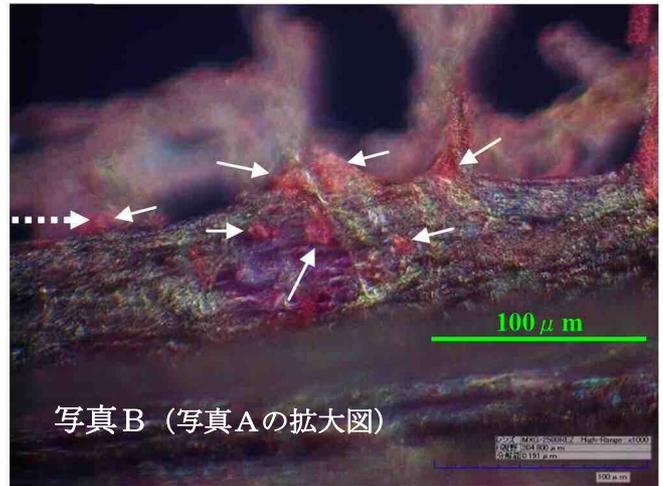
- ・セルトレイの場合は「マルチ共生菌」1袋(100ml)を200~400倍にうすめて散布して下さい。
- ・ビニールポットの場合は「マルチ共生菌」1袋(100ml)を1,000倍にうすめて散布して下さい。
- ・「マルチ共生菌」1袋(100ml)で1反分の苗を処理できます。

イチゴおよびトマトなどの長期採りの作物の場合や極端にストレスのかかる作型の場合は本圃へ月1回から2回定期的に散布するとより効果的です。

特徴① 作物への定着性が高い



写真A



写真B (写真Aの拡大図)

パークホルデリア菌を接種して育てたイチゴ根の顕微鏡観察(写真A)。赤く染まっているのがパークホルデリア菌(写真B 矢印)。(株)四国総合研究所調べ

特徴② 多種類の連作障害物質の分解が可能

「マルチ共生菌」は以下の連作障害物質を食べます

(株)四国総合研究所調べ

連作障害物質	影響を受ける主な作物
安息香酸	キュウリ、トマト、サトイモ、イチゴなど
サリチル酸	スイカなど
m-ヒドロキシ安息香酸	サトイモなど
p-ヒドロキシ安息香酸	レタス、ダイコン、キュウリ、トマト、サトイモなど
プロトカテク酸	アスパラガス、ニンジン、トマト、レタスなど
バニリン酸	レタス、ダイコン、ダイズ、トマト、サトイモなど
ゲンチジン酸	トマトなど
2,4-ジクロロ安息香酸	キュウリなど

ご使用上の注意点

- ※菌体が沈殿する場合がありますが効果に影響はありません。よく振って、希釈して下さい。
- ※製品中で微生物が生きています。殺菌剤、強アルカリ強酸資材との混用はできません。
- ※殺菌剤を使用する場合は3日以上の間隔をあけてから本製品を使用して下さい。
- ※冷蔵庫で保管し、6ヶ月以内に使用して下さい。
- ※開封後は残さずに使い切ってください。もしやむを得ず使い残しが出る場合は、雑菌が入らないように開封口をしっかり閉じ、冷蔵保管して下さい。
- ※安全性の高い製品ですが、小児の手の届かない所に置いて下さい。

- ・ 本表記載の内容は2013年6月現在のものです。
- ・ 製品改良などのため、製品仕様を予告なく変更することがありますので、予めご了承下さい。